

## 書評

『医薬アクセス  
グローバルヘルスのためのフレームワーク』

“Access: How do good health technologies get to poor people in poor countries?”

山田 陽城\*

Haruki Yamada

特定非営利活動法人DNDi Japan 理事長

Chair, Drugs for Neglected Diseases *initiative* Japan

著：ローラ・J. フロスト、 マイケル・R. ライシュ

監訳：津谷喜一郎

発行：株式会社明石書店／2017年3月7日

ISBN978-4-7503-4477-5, A5判・320頁、本体4,500円+税



本書はハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラムを率いてきたMichael R. Reich教授がビル&メリнда・ゲイツ財団の要請により、途上国問題の専門家であるLaura J. Frost氏と共に執筆、Harvard University Pressから刊行された原題“Access: How do good health technologies get to poor people in poor countries?”の日本語版である。

本書の特徴の一つ目は「医薬品のアクセス」のみならず多様な「医療技術」(health technology)のアクセスについても論じられていることである。すなわち6つのアクセスのケーススタディが章ごとに、住血吸虫駆虫薬であるプラジカンテル(praziquantel: PZQ)が医薬品として、B型肝炎ワクチンがワクチンとして、マラリア迅速診断テストが診断法として、ノルプラント(Norplant: 皮下埋込式避妊薬)が薬物型の避妊法として、ワクチン・バイアル・モニター(Vaccine Vial Monitor: VVM)がワクチンの品質関連機器とし

て、女性用コンドームが非薬物型の避妊法として、紹介されている。

これらはその開発からアクセスの流れに沿って各技術になにが起きたか、特定のケースにおいてさまざまなシステム上の欠陥がどのように対処され、あるいは対処されなかったかについて詳しく説明している。

特徴の二つ目は第2章の「医薬アクセスのフレームワーク」でそれぞれの医療技術に対して、availability (使用可能性), affordability (支払可能性), adoption (採用), architecture (組織構築)を4Asとし、これらがアクセスに達するフレームワークを提示していることである。各ケーススタディでは、いかに各医薬技術が途上国の患者や人々に受け入れられ適切に使われるか、そうでないかを、これらのコンセプトを用いて分析している。

わたしが関与しているDrugs for Neglected Diseases *initiative* (DNDi)は医薬品開発パートナー

\* 北里大学名誉教授

シップ機関である。必要な薬の入手が困難な貧困地域の患者のために顧みられない熱帯病や、C型肝炎、薬剤耐性等に対する安全で安価な治療薬を開発している。だが、必要な患者へのアクセスが確実に行われなければ最終的な目的は達成されない。また薬剤耐性対策などでも医薬アクセスの問題は重要であり、先進国でも例外ではない。

監訳者の津谷喜一郎氏は本誌編集委員の一人であり、これまでも「くすりギャップ」のシンポ

ジウム開催や出版（ライフサイエンス出版；2006）などを通じ、途上国の医薬品問題やそこの産官学の役割、NGO（non-governmental organization）の対応、日本の役割や問題の解決法についての議論を牽引している。

本書は世界の医薬アクセスの状況を知る上で、他に類を見ない教科書としても最適であり、国際保健に関心のある医療従事者、研究者にとっても必読の書といえる。



1. ケニアの村の女性たち  
© Don Paul - DNDi



2. ケニアの病院での薬の調剤  
© Don Paul - DNDi



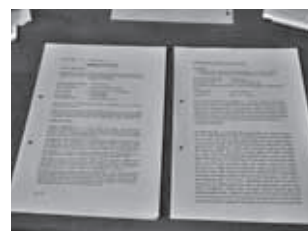
3. コンゴ民主共和国の病院での検査  
© Neil Brandvold - DNDi



4. ボリビアの居住環境  
© Fabio Nascimento - DNDi



5. 南アフリカの小児 HIV 治療  
© Mariella Furrer - DNDi



6. 英語とエチオピア語の同意のための説明文書



7. 試験薬の塗布



8. case reportの確認



9. 金曜に開かれる市場風景  
(奥にラクダ)

#### 発展途上国における医薬アクセスに関するスナップ写真

写真1-5はDNDi、写真6-9は長崎大学熱帯医学研究所 平山謙二教授から提供（試験結果は以下の論文に公表）. Na-Bangchang K, Ahmed O, Hussein J, Hirayama K, et al. Exploratory phase II controlled trial of Shiunko ointment local application twice a day for 4 weeks in Ethiopian patients with localized cutaneous leishmaniasis. *Evid Based Complement Alternat Med*. 2016; 2016: 5984709.